

A Case of Post-Lyme Disease Syndrome (PLDS) Involving Motor Neuropathy and Myositis

Yuka Shirai, Yumiko Uchiyama, Masaki Kobayashi, Eiichi Ito, Shinichiro Uchiyama, Yuko Shimizu, Kazuo Kitagawa

M J Neur. 3 (1): 009 ; 2018

【要旨】 症例は53歳男性、職業が農業教師であり、多数の国内外渡航歴を有していた。両下垂足の精査目的に当科入院。両下肢右優位遠位筋力低下があり、Gowers徴候陽性、動揺性歩行を認めたCK、アルドラーゼ、非特異的IgEが上昇しており、NCSで両側腓骨神経の遠位潜伏延長とCMAPの著明な低下がみられた。下肢MRIでびまん性変性・炎症があり筋生検を施行したところ、神経原性変化と筋原性変化の混在、炎症細胞浸潤と壊死線維がみられた。Western blot法でボレリア IgM(-)、IgG(+)でありLyme病と診断した。ミノマイシンで加療後、抗体が陰性化した。症状は不変でありPost-Lyme Disease Syndrome (PLDS) と考えた。免疫学的機序が関与していると考えIVIgを繰り返し施行し、下肢筋力が改善したMotor neuropathy と myositis を呈したPLDSの稀な症例を報告した。

Figure 2.

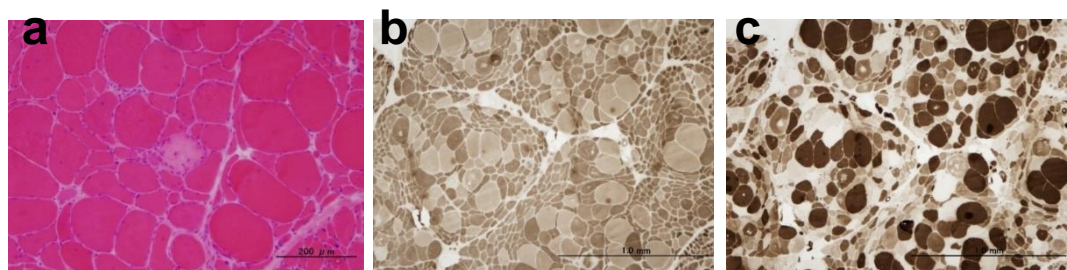


Figure 3. Clinical course

